

2019年7月3日

PRESS RELEASE

 Japan
International
Cooperation Agency

独立行政法人国際協力機構

□ 内容についてのお問い合わせ

独立行政法人国際協力機構（JICA）沖縄センター
総務課 米里（よねさと）、上原、照屋
TEL：098-876-6000 E-mail：jicaaic-psp@jica.go.jp
<http://www.jica.go.jp/okinawa/index.html>

G20 会場で (株)トマス技術研究所(うるま市)の超小型焼却炉 「チリメーサー」が紹介されました！

このたび大阪府でおこなわれた G20 会場の政府広報展示スペースにおいて、JICA 採択事業の中から、優れた案件（グッドプラクティス）として、インドネシア・バリ島デンパサール市の中央総合病院であるワンガヤ市立総合病院に、(株)トマス技術研究所（沖縄県うるま市、福富健仁代表取締役）が開発した超小型焼却炉「チリメーサー」が導入されたことが発表された。



G20 会場で紹介された「チリメーサー」



超小型焼却炉「チリメーサー」

当事業は、「2015 年度中小企業海外展開支援事業～普及・実証事業～」で採択され、「島嶼地域における環境に配慮した小型焼却炉の普及・実証事業」として実施した。急速な人口増と経済成長で廃棄物問題が深刻化するインドネシアで、特に危険性有害廃棄物である医療廃棄物の感染症対策のための処理施設として「チリメーサー」の導入が検討され、実証、調査研究を重ねた結果、2016 年 11 月に同病院に導入されたもの。

同焼却炉は、(株)トマス技術研究所が漂着物による環境の悪化から沖縄の海を守ろうと開発した小型焼却炉だ。「技術で社会に貢献する」という同社の理念が込められたすぐれモノ

で、無煙、超低ダイオキシン、完全自動運転、そして低コストが特色。これまでに、同社は環境大臣賞をはじめ発明大賞、沖縄県知事賞など数々の賞を受賞、県を代表するものづくり企業として注目されてきた。こうした実績が評価され、沖縄県のほとんどの離島で、塩害を受けた漂着物をはじめ、生活ゴミや廃プラスチックゴミを精力的に処理してきた。

今回の G20 に先立って長野県軽井沢町で開催された「G20 エネルギー・環境相会合」では、海に流れ出すプラスチックごみ（廃プラ）の削減に向けた国際枠組みの創設などを盛り込んだ共同声明が採択されるなど、廃プラ問題は国際的な課題になっている。一方、バーゼル条約によって廃プラの自国処理が当然の流れとなっており、中国やマレーシア、タイでは廃プラの輸入規制がはじまった。このままでは廃プラの滞留で処理ができずパンクしてしまうといわれている。そこで、話題となっているのが G20 で紹介された超小型焼却炉「チリメーサー」だ。世界中で「廃プラ（ゴミ）対策はレジ袋から」といわれ、集落ごと、コミュニティごと、農協、漁協ごとに処理するというのが時代の流れ、あらためて超小型焼却炉「チリメーサー」の力が試されている。

以 上